

授業科目	相談援助				
担当教員	仲田 勝美				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

**授業の目的**  
 保育者が実践する子育て支援の範囲と対象を理解し、具体的な事例を基に必要な支援を検討し、個別の支援が実践できる基本的な知識・価値観・技術を修得する。

- 授業の到達目標**
1. 相談援助の体系的理解を深め、修得する
  2. 実際の援助過程をロールプレイによる体験を通し、理解を深め、修得する
  3. 相談援助に求められる資質を獲得する
  4. 援助者としての自己覚知を得る
  5. 相談援助過程を評価することができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
 予習: テキストを読んでおくこと(毎回 2 時間)  
 復習: 学習した内容をノートなどに整理しておくこと(毎回 2 時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 相談援助とはなにか
2	相談援助の理論1(ソーシャルワーク理論モデル)
3	相談援助の理論2(ソーシャルワーク理論モデル)
4	相談援助の対象
5	相談援助の過程
6	相談援助の技術1(理論)
7	相談援助の技術2(実践1 自己覚知)
8	相談援助の技術3(実践2 傾聴、共感、繰り返しの技法)
9	相談援助の記録方法
10	関係機関との連携
11	多様な専門職者との連携
12	社会資源の活用
13	事例分析1 ロールプレイによる事例分析
14	事例分析2 虐待予防と対応等の事例分析
15	まとめ(全体の復習)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 毎回のまとめシート 30%、まとめレポート 70%、計 100%

**教科書**  
 『保育者のための相談援助』 萌文書林

**参考書・参考資料**  
 関連する資料は適宜配布する

**その他(学生へのアドバイス)**  
 講義内で示された課題の提出について、その意図を理解し、取り組むこと

授業科目	相談援助				
担当教員	太田 二郎				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

**授業の目的**  
 保育者が実践する子育て支援の範囲と対象を理解し、具体的な事例を基に必要な支援を検討し、個別の支援が実践できる基本的な知識・価値観・技術を修得する。

- 授業の到達目標**
1. 相談援助の体系的理解を深め、修得する
  2. 実際の援助過程をロールプレイによる体験を通し、理解を深め、修得する
  3. 相談援助に求められる資質を獲得する
  4. 援助者としての自己覚知を得る
  5. 相談援助過程を評価することができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・授業の冒頭、前回の授業内容の振り返りを行うので、質問される内容について回答できるよう1時間は復習をしてくること。  
 ・講義ノートが現場に出てからのマニュアルとなるようノート整理を毎回行うこと。  
 (毎回 2 時間の予習・復習をすること)

回数	授業計画・内容
1	「福祉」とは何か。「相談援助」とは。
2	社会福祉機関での相談援助業務とは
3	相談者(クライアント)の置かれている立場や背景
4	相談援助の原理原則・機能
5	対人援助で用いるコミュニケーション技法
6	効果的コミュニケーション
7	非効果的コミュニケーション
8	信頼関係を基本とした受容的かかわり
9	自己決定、秘密保持の尊重
10	子どもの最善の利益と福祉の重視
11	虐待のメカニズムとその事例検証
12	入所児童の家庭復帰支援、関係機関との連携
13	児童福祉施設の類型(設置目的と生活形態の関係)
14	社会資源の活用、調整、開発
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 筆記試験(70%)、課題レポート(30%)、計 100%

**教科書**  
 指定なし

**参考書・参考資料**

**その他(学生へのアドバイス)**  
 「相談援助」には欠かせない「傾聴」姿勢をもって臨んで欲しい。

授業科目	保育実習 I			
担当教員	後藤直美・西川由美子			
開講時期	講義形態	実習	単位数	4単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 保育所の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して体験から学びを深める。また、保育者の業務内容や職業倫理について学ぶことを目的とする  
 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について理解する。また、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解することを目的とする

- 授業の到達目標**
- (1) 保育所の生活の流れや機能、保育者の役割について説明できる
  - (2) 乳幼児の言葉や行動の観察を通して、乳幼児についての理解を深め、説明することができる
  - (3) 乳幼児の遊びや保育活動に積極的にかかわることができる
  - (4) 保育以外の環境整備など、保育者の仕事を自発的協力的に行うことができる

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ・実習前には予習として、実習事前指導に従い、書類作成、教材準備、実習の手引きの確認などを行う(1時間)
  - ・実習後には、毎日必ず実習の振り返りを行い、実習記録の作成を行う(1時間)
  - ・実習中は予習、復習を合わせて2時間以上を行うこと

回数	授業計画・内容
	【保育所実習の主な内容】
	保育所の役割と機能
	・保育所の生活と一日の流れ
	・保育所保育指針の理解と保育の展開
	子ども理解
	・観察と記録、発達過程、援助やかかわり
	保育内容・保育環境
	・保育の計画や発達過程に基く保育内容
	・生活や遊びに応じた保育環境、健康・安全な保育環境
	保育の計画、観察、記録
	・保育課程と指導計画の理解と活用
	・記録に基づく省察・自己評価
	専門職としての保育者の役割と職業倫理
	・保育者の業務内容、職業倫理
	・職員間の役割分担や連携

**成績評価の方法・基準**  
 実習園の評価 70%、提出物 30%、計 100%

**教科書**  
 『保育所保育指針解説書』・『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館  
 『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ(第2版)』 愛智出版  
 『保育の計画と方法(第3版)』 同文書院

**参考書・参考資料**  
 『実習の手引き』

**その他(学生へのアドバイス)**  
 「実習の手引き」に記載されている「実習参加条件」に従って、実習参加の可否を決定する  
 実習後、「実習記録」の提出をする  
 実習する地域、施設によって、実習に必要な手続きや健康診断などを必要とする場合がある

授業科目	保育実習 I (施設)			
担当教員	山田光治・築山高彦			
開講時期	後期	講義形態	実習	単位数 4単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 これまで学んだ教科の内容を基礎とし、これらを総合的に実践する能力を養うため、児童福祉施設等における養護及び自立支援の実際について、現場での実習を通し体験的に学ぶことを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 児童福祉施設等の役割や機能、保育士の職務内容について具体的に理解する。
  2. 子ども(利用者)との関わりを通して対象者への理解を深める。
  3. 既得の知識・技能を踏まえ、子ども(利用者)および保護者への支援について総合的に学ぶ。
  4. 保育士としての職業倫理や子ども(利用者)の最善の利益を理解する。

- 自修について(予習・復習内容等)**
- ・実習前にテキスト、実習のてびきを読んで実習に臨む。
  - ・実習中は毎日の記録をしっかりと記述するとともに、考察し、テキスト、手引き等を読み、翌日に備える。
  - ・実習後は、実習での体験を整理し、今後取り組むべき課題を明確にする。

**授業計画・内容**  
 実習先の児童福祉施設等において、宿泊(あるいは通所)で実習を行う。実習中は当該施設の施設実習担当職員等の指導のもと、現場で実際に行われている養護や自立支援を観察し、実践を通して以下のことを体験的に学ぶ。  
 ・施設の持つ役割・機能について学ぶ。  
 ・施設で生活する子ども(利用者)の様子を観察し、実践を通して、関わり方や支援について学ぶ。  
 ・施設における保育者(支援員)の職務や役割について学ぶ。  
 ・専門職としての倫理、職員間の役割分担・連携について学ぶ。  
 また、実習期間中に教員の訪問指導を1回以上受ける。

**成績評価の方法・基準**  
 ・実習先施設による評価 70%  
 ・事前訪問記録および実習記録等 30%、計 100%

**教科書**  
 「新版 保育士を目指す人のための福祉施設実習」愛知県保育実習連絡協議会編 みらい

**参考書・参考資料**  
 ・実習の手引き、『朋』愛知県児童福祉施設長会発行誌  
 ・授業の要点となる資料を配布する。

**その他(学生へのアドバイス)**  
 本学の『岡崎女子短期大学保育士資格取得に係る履修の規定』に基づき、「保育実習指導 I」の欠席の多い場合や実習に必要な課題などを提出していない場合等、個別指導を行う。指導の結果、改善が見られない場合は、原則、実習に参加できない。

授業科目	保育実習指導 I				
担当教員	後藤直美・西川由美子				
開講時期	講義形態	演習	単位数	2単位	

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 保育実習の意義を理解し「保育実習 I (保育所実習)」に向けて必要な心構えや準備を行う。実習終了後は事後指導を行い「保育実習 II」に向けた自らの課題を見出すことを目的とする  
 実習の目的・概要や実習のマナーの理解とともに、実習に伴う提出書類や実習記録の記入方法について学ぶ。また、子ども理解、教材研究、保育実技について実際に行いながら実践に備えることを目的とする

- 授業の到達目標**
- (1) 保育実習の意義・目的を理解し、説明できる
  - (2) 実習の内容を理解し、自らの課題を明確に認識できる
  - (3) 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等に努めることができる
  - (4) 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に工夫することができる
  - (5) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標等を文章化することができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・実習に必要な書類作成、教材研究、制作物、記録等授業内で説明を受けた後、全て予習・復習が必要となる。毎回1時間行うこと  
 ・止むを得ず欠席した場合は授業と同時間の補充を行う

回数	授業計画・内容
	保育実習の意義 (1) 実習の目的
	(2) 実習の概要
	実習の内容と課題の明確化 (1) 「保育実習 I」の内容
	(2) 「保育実習 I」の課題
	実習の留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
	(2) プライバシーの保護と守秘義務
	(3) 実習生としての心構え
	子ども理解 (1) 年齢ごとの発達の理解①0. 1. 2 歳児
	年齢ごとの発達の理解②3. 4. 5 歳児
	(2) 保育教材(研究・制作)
	(3) 保育実技(研究・実践練習)
	実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践
	(2) 実習における観察、記録及び評価
	実習の事後指導 (1) 実習の総括と自己評価
	(2) 「保育実習 II」に向けた課題の明確化

**成績評価の方法・基準**  
 提出物 50%、教材研究・制作物 30%、授業ファイル 20%、計 100%

**教科書**  
 『保育所保育指針解説書』・『幼稚園教育要領解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館  
 『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ(第2版)』 愛智出版  
 『保育の計画と方法(第3版)』 同文書院

**参考書・参考資料**  
 『実習の手引き』

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業内で配付する資料は必要事項を記入して規定の「授業ファイル」に整理して綴じる。「授業ファイル」は授業終了時に提出すること  
 この授業は、「保育実習 I」の事前・事後指導を行う。授業に全出席していることが『実習の参加条件』なので欠席をしないこと  
 「特別講義」「交流会」などの実習にかかわる行事に参加する

授業科目	保育実習指導 I (施設)				
担当教員	山田光治・築山高彦				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

**授業の目的**  
 施設実習を有意義なものとするために、事前指導において基礎知識・実習に臨む基本態度を修得し、実習に必要な準備を整えることを目的とする。事後指導では実習参加で得られた実践的学びを深めることを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 実践現場の体験を通して、児童福祉施設等の役割や機能、保育士の職務内容について具体的に説明できる。
  2. 既習の知識・技能を踏まえ、子ども(利用者)や保護者への支援の基本を修得できる。
  3. 保育士としての職業倫理や個々の子ども(利用者)の最善の利益を考え行動できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・各回の授業テーマに関連する実習の手引き、テキストの個所を予習復習する。  
 ・授業で指示のあった課題を期日までに提出する。  
 ・授業内容を整理し、必要な関連資料と合わせファイルに綴じておく。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション、施設実習の意義と目的
2	見学実習及び実習先施設について学ぶ
3	実習報告会の内容を視聴
4	児童養護施設の見学実習
5	施設の概要と仕事について学ぶ(テキスト、機関誌)
6	特別授業(障害者支援施設職員)で実習の心構えを学ぶ
7	実習先の決定、実習施設の施設調べ
8	実習における課題の明確化
9	事前訪問、訪問指導等の実習手順と手続き
10	実習で使用する各種記録用紙、記録の書き方
11	実習全体の流れを理解する(DVD 視聴を通して)
12	実践事例で子ども(利用者)への関わり方の理解する
13	施設実習の留意事項の最終確認
14	施設実習の振り返り(1)実習総括と発表
15	施設実習の振り返り(2)今後の課題の明確化
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ・大学で行う事前指導における授業での提出課題 40%、  
 ・実習後の最終課題等 60%、計 100%

**教科書**  
 「新版 保育士を目指す人のための福祉施設実習」愛知県保育実習連絡協議会編 みらい

**参考書・参考資料**  
 ・実習の手引き、『朋』愛知県児童福祉施設長会発行誌  
 ・授業の要点となる資料を配布する。

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・実習に向けてのレポート課題、書類をきちんと作成し、期日までに提出すること。  
 ・事前指導等の授業には必ず出席し、課題等を提出することで実習参加の資格が与えられる。  
 ・テキスト、実習の手引き等授業に必要なものは毎回持参する。

授業科目	子どもの保健Ⅰ				
担当教員	一ノ尾 志保				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関係	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎		◎

**授業の目的**  
 子どもの健康と保持増進を図る小児保健の意義及び、心身の発育発達と健康への影響について理解する。また、子どもの発育発達を促す生活支援を行うために必要な小児期の身体発育、生理的機能、精神運動機能の発達に関する基礎的知識を理解する。さらに、子どもが育つ望ましい保育環境の整備について安全・衛生的側面から理解する。

**授業の到達目標**  
 (1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明することができる。  
 (2)子どもの心身の成長と諸機能の発達について、発達段階と関連させたうえで、成長発達、精神運動機能の評価をすることができる。  
 (3)子どもの基本的な生活習慣について、発達段階と関連させ説明することができる。  
 (4)望ましい保育環境の整備について、安全・衛生的側面から説明することができる。  
 (5)母子保健対策や保育に関する統計などの保健行政について説明することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 保育所保育指針第5章健康及び安全を事前に読み授業に臨む(2時間)  
 「母子保健法」「児童福祉法」など関連法規や発達理論と関連付けて理解する。小児の生活習慣や精神保健等、発達段階の特性と関連させて理解する。授業内容に関連する情報を調べ理解を深めること。  
 授業毎に課題提出1時間  
 1回～14回まで毎回の授業につき予習復習等2時間  
 試験準備として15時間

回数	授業計画・内容
1	子どもと健康の定義・小児保健の意義・目的
2	子どもの成長発達 (1)成長発達とは・胎児の発育
3	子どもの成長発達 (2)生理機能の発達－循環・呼吸・体温
4	子どもの成長発達 (3)生理機能の発達－消化・排泄
5	子どもの成長発達 (4)生理機能の発達－免疫・感覚器
6	子どもの成長発達 (5)運動機能の発達
7	子どもの成長発達 (6)アタッチメントの発達・社会性の発達
8	子どもの成長発達 (7)言語機能の発達・認知の発達
9	子どもの成長発達 (8)情緒の発達・遊びの発達
10	子どもの生活と健康 (1)食と栄養・排泄・衣服
11	子どもの生活と健康 (2)睡眠・清潔
12	子どもの保健に関する統計と保健行政
13	母子保健対策と保育・子育て支援
14	望ましい環境と保健 保育環境・事故防止と安全教育
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 筆記試験80%、提出物20%、計100%

**教科書**  
 テキスト「保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅰ」建帛社

**参考書・参考資料**  
 「保育所保育指針」平成20年告示 厚生労働省  
 「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」ななみ書房

**その他(学生へのアドバイス)**  
 テキスト・配布資料等、毎回持参し整理管理すること  
 授業後のリアクションペーパーを十分に活用し、学習内容をその都度復習すること

授業科目	子どもの保健Ⅱ				
担当教員	一ノ尾 志保				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関係	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎		◎

**授業の目的**  
 子どもの健康状態や病気の特徴、病気や症状に対する看護方法、予防対策などを知り、保育上の留意点について理解する。  
 また、近年の子どもを取り巻く環境の特徴を知り、成長発達及び心身の健康への影響、または社会における子どもの養育に係る健康問題及び社会問題について関心を持ち、より良い保健活動について考える力を身につける。

**授業の到達目標**  
 (1)子どもの健康状態の把握の方法と主な病気の特徴を説明することができる。  
 (2)子どもの発症しやすい病気や感染症について、その症状、看護及び予防法について説明することができる。  
 (3)個別的な配慮の必要な疾患(小児生活習慣病・アレルギー疾患)について説明することができる。  
 (4)近年の子どもを取り巻く環境と心身の健康への影響、また社会的課題について説明することができる。  
 (5)子どもの心の健康とその課題について説明することができる。  
 (6)地域における保健活動と連携について理解したうえで、より良い保健活動について自分なりに考えを持って、表現することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 保育所保育指針第5章健康及び安全を事前に読み授業に臨む(2時間)  
 「母子保健法」「児童福祉法」など関連法規や発達理論と関連付けて理解する。小児の生活習慣や精神保健等、発達段階の特性と関連させて理解する。授業内容に関連する情報を調べ理解を深めること。  
 授業毎に課題提出1時間  
 1回～14回まで毎回の授業につき予習復習等2時間  
 試験準備として15時間

回数	授業計画・内容
1	子どもの病気の特徴と健康状態の把握
2	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (1)感染と免疫
3	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (2)感染症
4	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (3)先天異常
5	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (4)アレルギー疾患
6	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (5)消化器疾患
7	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (6)呼吸・循環器・血液等
8	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (7)泌尿生殖器・神経疾患
9	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (8)眼・耳・整形外科疾患
10	子どもの病気と予防・保育・看護の方法 (9)内分泌代謝性疾患
11	保育環境と衛生管理
12	子どもの生活環境と精神保健
13	子どもの心の健康とその課題
14	健康及び安全の実施体制(虐待防止と地域保健活動との連携)
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 筆記試験80%、提出物20%、計100%

**教科書**  
 「保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅰ」建帛社

**参考書・参考資料**  
 「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」ななみ書房  
 「保育所保育指針」平成20年告示 厚生労働省

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業の学びや課題を活用し、学習内容をその都度復習すること



授業科目	家庭支援論				
担当教員	細江 逸雄				
開講時期	前・後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		○	◎	◎	

**授業の目的**  
 保育者として、保護者や子育て家庭への支援が適切に行えるように、現代の家庭が置かれている状況や抱える問題を理解する。また様々な子育て支援の関係機関の連携を理解し、支援者としての基本的態度を修得する。

**授業の到達目標**  
 (1) 家庭の意義とその機能を理解し説明できる。  
 (2) 子育て家庭を取り巻く状況及び支援体制を理解し説明できる。  
 (3) 多様な支援の展開と関係機関との連携を理解し説明できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 各回の授業について、内容の整理及び疑問点、問題点を各自把握し理解を深める。このため15回の授業後復習(1時間)及び授業内容に関連する事項について、新聞、テレビ等により理解を深める。毎日(1時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション(家庭支援とは)
2	家庭の意義と機能
3	子育て家庭を取り巻く社会的状況 1 現代の子育て家庭における人間関係
4	子育て家庭を取り巻く社会的状況 2 地域社会の変容と家庭支援
5	子育て家庭を取り巻く社会的状況 3 児童虐待 夫婦間暴力(DV)
6	家庭支援の必要性
7	少子化対策の変遷と子育て家庭への支援体制
8	子育て支援サービスの概要 課題
9	子育て支援における関係機関の連携
10	保育士が行う家庭支援の原理
11	支援の実際 1 保育園通園児の家庭への支援
12	支援の実際 2 地域子育て家庭への支援
13	支援の実際 3 特別な配慮を要する家庭への支援
14	支援の実際 4 児童福祉施設での家庭支援
15	まとめ(全体の復習)
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 課題(2回×20%)=40%、期末試験 60%、計100%

**教科書**  
 使用しない。  
 授業内で適宜資料を配布する。

**参考書・参考資料**  
 「保育所指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館  
 「保育と家庭支援」株式会社 みらい

**その他(学生へのアドバイス)**  
 特になし

授業科目	障害児保育 I				
担当教員	白垣 潤				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
 最近、社会福祉の発展に伴い、幼稚園や保育所で障害児を受入れ、統合保育を行っているところが増加傾向である。また、発達障害や発達障害が疑われる幼児も保育・教育現場で多数報告されるようになってきている。この授業では、障害児についての知識・理解を深め、就職後対応していける資質を獲得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
 障害児に関する知識・理解を深め、対応していくためのスキルを学ぶ。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 授業で示す関連資料(参考文献・映像資料を含む)について週1時間は勉強すること。毎回行われる小テストの準備にもなります。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	障害論1
3	障害論2
4	視覚障害、聴覚障害、言語障害について
5	肢体不自由について1(姿勢運動発達について)
6	肢体不自由について2(運動障害について)
7	知的障害について1(概論)
8	知的障害について2(遺伝子学)
9	情緒障害、病弱・虚弱・内部障害について
10	発達障害について1(PDDについて)
11	発達障害について2(ADHDについて)
12	発達障害について3(LDについて)
13	発達障害について4(TEACCH プログラムについて)
14	発達障害について5(その他の療育について)
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業毎に行われる小テスト90%、期末レポート10%、計100%

**教科書**  
 使用しません

**参考書・参考資料**  
 随時提示します

**その他(学生へのアドバイス)**  
 随時関連する映像資料を見ることがあります。映像資料の時間とクラスの時間割によっては、負担がない形で計画的な補講を組み合わせることによって2時間連続で授業をすることもあります。またSKホールでの視聴を行うこともあります。

授業科目	障害児保育 I				
担当教員	梅下 弘樹				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
最近では、多くの保育所・幼稚園で障害のある子どもたちが受け入れられ、共に育ち合う保育・教育が行われている。また、医療・療育といった専門機関との連携も定着し始めている。本授業では、様々な障害について知識と理解を深め、保育者が子どもたちの豊かな育ちを保障していくための支援者であることを認識する。

**授業の到達目標**  
1. 障害のある子どもたちの置かれた状況を理解し、説明することができる。  
2. 障害児保育の実際について基本的な知識を理解し、説明することができる。  
3. 保護者への共感的支援や関係機関との連携について理解し、説明することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
授業で示す関連資料(参考文献・映像資料を含む)について週1時間は勉強すること。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	障害論1(障害についての基本的理解)
3	障害論2(支援に関する基本的理解)
4	障害児保育の現状
5	統合保育について
6	療育について
7	発達障害について1(知的障害について)
8	発達障害について2(自閉症について)
9	発達障害について3(学習障害について)
10	発達障害について4(注意欠陥/多動性障害について)
11	発達障害について5(行動/情緒障害について)
12	障害児理解の方法について1(観察・面接)
13	障害児理解の方法について2(心理検査1)
14	障害児理解の方法について3(心理検査2)
15	授業のまとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
各種小課題 30%、筆記試験 70%、計 100%

**教科書**  
使用しない。  
**参考書・参考資料**  
授業内で必要な資料を随時提示する。  
**その他(学生へのアドバイス)**

授業科目	障害児保育 II				
担当教員	白垣 潤				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
最近、社会福祉の発展に伴い、幼稚園や保育所で障害児を受入れ、統合保育を行っているところが増加傾向である。また、発達障害や発達障害が疑われる幼児も保育・教育現場で多数報告されるようになってきている。この授業では、障害児についての知識・理解を深め、就職後対応していける資質を獲得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
障害児に関する知識・理解を深め、対応していくためのスキルを学ぶ。

**自修について(予習・復習内容等)**  
授業で示す関連資料(参考文献・映像資料を含む)について週1時間は勉強すること。毎回行われる小テストの準備にもなります。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	障害児理解の方法1(発達論)
3	障害児理解の方法2(心理検査概論)
4	障害児理解の方法3(発達検査1 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法)
5	障害児理解の方法4(発達検査2 乳幼児精神発達診断法)
6	障害児理解の方法5(知能検査1 DAM、PVT)
7	障害児理解の方法6(知能検査2 WISC-III)
8	障害児理解の方法7(知能検査3 K-ABC)
9	障害児のアセスメントについて1(基礎データ)
10	障害児のアセスメントについて2(面接・観察)
11	障害児のアセスメントについて3(評価と対応)
12	家庭及び関係機関との連携1(カウンセリング)
13	家庭及び関係機関との連携2(個別指導計画)
14	障害のある子どもの保育に関わる現状と課題
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
授業毎に行われる小テスト 90%、期末レポート 10%、計 100%

**教科書**  
使用しません  
**参考書・参考資料**  
随時提示します  
**その他(学生へのアドバイス)**  
随時関連する映像資料を見ることがあります。映像資料の時間とクラスの時間割によっては、負担がない形で計画的な補講を組み合わせることによって2時間連続で授業をすることもあります。またS Kホールでの視聴を行うこともあります。

授業科目	障害児保育Ⅱ				
担当教員	梅下 弘樹				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
最近では、多くの保育所・幼稚園で障害のある子どもたちが受け入れられ、共に育ち合う保育・教育が行われている。医療・療育といった専門機関との連携も定着し始めている。  
この授業では、「障害児保育Ⅰ」で習得した障害児についての基本的知識に基づき、保育者は、子どもたちの豊かな育ちを保障していくための支援者であるという認識を深めると同時に、様々な事例を基に具体的な支援のあり方を学び理解を深めることを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 障害のある子どもたちの置かれた状況について、実践例を通してより深く理解し、説明することができる。
  2. 障害児保育の実際の基本的な知識について、実践例を通してより深く理解し、説明することができる。
  3. 保護者への共感的支援や関係機関との連携について、実践例を通してより深く理解し、説明することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
授業で示す関連資料(参考文献・映像資料を含む)について週1時間は勉強すること。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	障害児理解の方法1(発達論)
3	障害児理解の方法2(心理検査概論)
4	障害児のアセスメントについて1 (アセスメントの目的と進め方)
5	障害児のアセスメントについて2(面接・行動観察)
6	障害児のアセスメントについて3(心理検査法)
7	障害児の支援1(支援のための基礎理論)
8	障害児の支援2(コミュニケーションに関する支援)
9	障害児の支援3(行動問題に関する支援)
10	障害児の支援4(教育的対応における支援)
11	障害児の支援5(地域や家庭における生活に関する支援)
12	障害児保育事例検討1(遊びについて)
13	障害児保育事例検討2(集団活動について)
14	障害児保育事例検討3(こだわりについて)
15	授業のまとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
各種小課題 30%、筆記試験 70%、計 100%

**教科書**  
使用しない。

**参考書・参考資料**  
授業内で必要な資料を随時提示する。

**その他(学生へのアドバイス)**

授業科目	幼児音楽Ⅰ				
担当教員	滝沢ほだか・原田裕貴				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
基礎音楽での学修を踏まえ、保育における様々な音楽活動で必要とされる、高度な演奏技能、豊かな感性に基づく表現力を習得し、また、保育現場での子どもの音楽表現活動を支援するために必要な知識、技能、実践力について理解することを目的とする。

- 授業の到達目標**
- (1) 春、夏の季節を中心とした幼児曲10曲以上を暗譜で弾き歌いすることができる
  - (2) 簡単なコードを使って幼児曲に伴奏をつけることができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
・音楽的な知識、技術、表現等における疑問点、問題点を各自把握し、効率的な練習(1時間以上)を毎日継続すること。  
・一回の授業につき、課題曲の歌詞、楽語、指使い等の把握と、演奏の表現について必ず予習・復習等を行うこと。  
・課題曲が持つ曲の意図やイメージについて考えてくること。

回数	授業計画・内容
1	前期授業ガイダンス
2	幼児曲の弾き歌い(かわいいかくれんぼ・ことりのうた等)・音楽理論(基礎音楽Ⅰ・Ⅱの復習)
3	幼児曲の弾き歌い(ぼかぼかてくてく・とけいのうた等)・コード(基礎音楽Ⅰ・Ⅱの復習)
4	実習に備えて(一人で手遊び)
5	実習に備えて(二人以上で手遊び)
6	幼児曲の弾き歌い(めだかのがっこう・はなび等)・簡易伴奏法(春の歌から)
7	幼児曲の弾き歌い(しゃぼんだま等)・簡易伴奏法(夏の歌から)
8	前期中間まとめ・今後の学習課題について
9	幼児曲の弾き歌い(おぼけなうた・つき等)・音楽理論(音程)
10	幼児曲の弾き歌い(山の音楽家・あめふりくまのこ等)・音楽理論(調性)
11	幼児曲の弾き歌い(もりのくまさん等)・音楽理論(移調)
12	幼児曲の弾き歌い(おもちゃのちゃちゃちゃ等)・簡易伴奏法(生活の歌から)
13	幼児曲の弾き歌い(南の島のハメハメハ大王等)・簡易伴奏法(応用)
14	復習と確認
15	前期末まとめ・後期に向けた学習課題について
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
予習・復習した曲の確認 40%、中間・期末試験 60%、計 100%

**教科書**  
「子どものうた村 保育の木」(ドレミ楽譜)  
「みんなで手遊び One・Two・トン」(ドレミ楽譜)  
「子どもの表現活動を導くコードネームによる伴奏法」(圭文社)

**参考書・参考資料**  
パベル教則本、ピアノキャンパス等

**その他(学生へのアドバイス)**  
授業では、ML システムを活用した集団授業と個人指導を行います。

授業科目	幼児音楽Ⅱ				
担当教員	小野隆司・山内敦子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
 幼児音楽Ⅰでの学修を踏まえ、音楽活動を通して演奏技能を高めるだけでなく、保育の現場で応用できる音楽表現を創造するための発想力を養い、保育実践において子どもの音楽表現活動を支援するために必要な様々な知識、技能、実践力について体得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
 (1) 秋、冬の季節その他の幼児曲10曲以上を暗譜で弾き歌いすることができる。  
 (2) 様々なコードを使って幼児曲に伴奏をつけることができる。  
 (3) 保育現場で応用できる、様々な技術や表現について、演奏を用いて体現することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・音楽的な知識、技術、表現等における疑問点、問題点を各自把握し、効率的な練習(1時間以上)を毎日継続すること。  
 ・一回の授業につき、課題曲の歌詞、楽語、指使い等の把握と、演奏の表現について必ず予習・復習等を行うこと。  
 ・課題曲が持つ曲の意図やイメージについて考えてくること。

回数	授業計画・内容
1	後期授業ガイダンス
2	幼児曲の弾き歌い(やぎさんゆうびん等)・音楽理論(基礎音楽Ⅰ・Ⅱの復習)
3	幼児曲の弾き歌い(きこの等)・コード(基礎音楽Ⅰ・Ⅱの復習)
4	幼児曲の弾き歌い(アイアイ等)・簡易伴奏法(春の歌から)
5	幼児曲の弾き歌い(いぬのおまわりさん等)・簡易伴奏法(夏の歌から)
6	幼児曲の弾き歌い(ホホホ等)・簡易伴奏法(秋の歌から)
7	幼児曲の弾き歌い(どうぶつ等の歌から)・簡易伴奏法(生活の歌から)
8	前期中間まとめ・今後の学習課題について
9	幼児曲の弾き歌い(ゆき等)・音楽理論(調性)
10	幼児曲の弾き歌い(あわてんぼうのサンタクロース等)・音楽理論(リズム)
11	幼児曲の弾き歌い(お正月・さよならぼくたちのほいくえん等)・音楽理論(楽語)
12	幼児曲の弾き歌い(一年生になったら等)・簡易伴奏法(生活の歌から)
13	幼児曲の弾き歌い(うれしいひなまつり等)・簡易伴奏法(応用)
14	復習と確認
15	後期期末まとめ・現場での実践に向けた学習課題について
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 予習・復習した曲の確認 40%、中間・期末試験 60%、計 100%

**教科書**  
 「子どものうた村 保育の木」(ドレミ楽譜)  
 「みんなで手遊び One・Two・トン」(ドレミ楽譜)  
 「子どもの表現活動を導くコードネームによる伴奏法」(圭文社)

**参考書・参考資料**  
 バイエル教則本、ピアノキャンパス等

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業では、MLシステムを活用した集団授業と個人指導を行います。

授業科目	幼児造形Ⅱ				
担当教員	米窪 洋介				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
 この授業は、「幼児造形Ⅰ」で学んだことを基礎とし、演習課題に取り組みながら、子どもの発達段階に応じた材料・用具の選択や使用方法について知識や技能を習得する。  
 また、保育現場で子どもの造形活動を展開させるために必要な言語や保育現場を想定した造形活動の指導法を具体的に考える力を身につけることも目的とする。

**授業の到達目標**  
 1. 様々な材料・用具について理解し、子どもの発達段階に応じた選択や使用ができる。  
 2. 子どもの造形活動を展開させるために必要な言語表現ができる。  
 3. 保育現場を想定した造形活動の指導法を具体的に組み立てることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・毎授業後に振り返りをワークシートに記入すること(0.5時間)  
 ・各課題終了後には、ワークシートをまとめること(合計6時間)  
 ・最終授業後に全15回の振り返りをレポートにまとめること(1.5時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション(子どもの造形活動の意義と保育者の役割について) ペーパークラフト
2	壁面構成①(製作方法と現場での活用、デザイン)
3	壁面構成②(製作)
4	壁面構成③(展示・鑑賞)
5	版画①(製作方法と現場での活用、紙版画)
6	版画②(コラグラフ)
7	版画③(刷り)
8	ポップアップ(製作方法と現場での活用について、実践)
9	クレヨン遊び(製作方法と現場での活用について、実践)
10	シャボン玉遊び(製作方法と現場での活用について、実践)
11	ローラー遊び(製作方法と現場での活用について、実践)
12	絵画製作①(製作方法と現場での活用について、デザイン)
13	絵画製作②(製作)
14	絵画製作③(仕上げ)
15	絵画製作④(展示・鑑賞)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ファイル(ワークシート、期末レポート)50%、提出作品 50%、計 100%

**教科書**  
 「造形のじかん」愛智出版  
**参考書・参考資料**  
 適宜授業内で配布

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・絵の具等を使用するため、汚れてもよい服装で受講すること  
 ・オリエンテーションで指示する形式のファイルを用意すること  
 ・構想を練るなど、演習を円滑に行うための準備を行うこと。場合によっては、材料の調達を行うこと



授業科目	幼児体育 I				
担当教員	鳥居恵治・中田伸江				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 幼児期は運動あそびを通して、体をコントロールする能力を身につける時期であり、生涯の運動習慣に大きく影響を及ぼす。そこで、幼児期の運動あそびに関する基本的な内容を理解し、楽しみながら体力及び技能を高めることを目的とした運動あそびの指導計画の作成や基本的な環境構成、安全管理に配慮した指導法を身につける。また、幼児を対象にした運動あそびの実践を通して、適切な援助のあり方を体得する。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもの運動特性（基本的な能力や技能）について説明することができる。  
 (2) 運動あそびの指導計画の作成や基本的な環境構成について考えや意見を示すことができる。  
 (3) 安全管理に配慮した援助の仕方について工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 毎時終了後、ワークシートに授業内容(運動遊びの知識や援助・補助のあり方)の振り返りと、継続的な身体活動や基本運動技能の習得を合わせて1週間当たり1時間行うこと。

回数	授業計画・内容
1	ガイダンスと～幼児の運動あそび～
2	仲間づくりのあそび
3	フープを使ったあそび
4	跳び箱を使ったあそび
5	平均台を使ったあそび
6	鉄棒を使ったあそび
7	マットを使ったあそび (1) 前回りと後回り
8	マットを使ったあそび (2) ソフトマット
9	トランポリンを使ったあそび
10	タイヤチューブを使ったあそび
11	運動あそびの指導計画 (1) サーキットあそび
12	運動あそびの指導実践 (1) 年少児
13	運動あそびの指導実践 (2) 年中児
14	運動あそびの指導実践 (3) 年長児
15	まとめ (全体の復習)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ワークシート(期末試験レポートを含む) 60%, 運動技能 40%, 計 100%

**教科書**  
 ワークシート(授業ノート)を配布する。

**参考書・参考資料**  
 ・「体育あそびアラカルト」(榎岡義明編著, 朱鷺書房)  
 ・「運動遊び」(井上勝子編著, 建帛社)  
 ・「運動あそび指導百科」(前橋明著, ひかりのくに)

**その他(学生へのアドバイス)**  
 毎時、運動のできる服装(ジャージ及び体育館シューズ)で受講し、水分補給の準備をすること。

授業科目	幼児体育 II				
担当教員	鳥居恵治・山下晋				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	○

**授業の目的**  
 「幼児体育 I」で学んだことを基礎として、幼児を対象にした「楽しみながら体力及び技能を高めるための運動あそびのプログラム」を作成する。このプログラムを実践及び評価(成功・失敗の要因を分析)するプロセスを通して、指導計画の作成や基本的な環境構成、安全管理に配慮した指導や適切な援助のあり方、さらに、よりよいプログラム作成の方法を修得する。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもを対象にした運動あそびの環境構成や、援助のあり方について説明することができる。  
 (2) 自ら運動あそびのプログラムを作成し、実践した結果について考えや意見を示すことができる。  
 (3) 結果を分析し、よりよいプログラム作成のために、個人またはグループで創意工夫をすることができる。  
 (4) 安全管理に配慮した援助の仕方について工夫することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 毎時終了後、ワークシートに授業内容(運動遊びの知識や援助・補助のあり方)の振り返りと、継続的な身体活動や基本運動技能の習得を合わせて1週間当たり1時間行うこと。

回数	授業計画・内容
1	なわ(長なわ・短なわ)を使ったあそび
2	パラバルーンを使ったあそび
3	ボールを使ったあそび
4	運動あそびの指導計画 (2) コーナーあそび
5	運動あそびの指導実践 (4) 年少児
6	運動あそびの指導実践 (5) 年中児
7	運動あそびの指導実践 (6) 年長児
8	いろいろなゲームあそび (1) 運動量を増やす工夫
9	いろいろなゲームあそび (2) 歌に合わせたあそび
10	いろいろなゲームあそび (3) 鬼あそびを中心に
11	身近な素材(新聞など)を使ったあそび
12	運動あそびの指導計画 (3) オリジナルあそび
13	運動あそびの指導実践 (7) 1～3 グループの発表
14	運動あそびの指導実践 (8) 4～6 グループの発表
15	まとめ (全体の復習)
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ワークシート(期末試験レポートを含む) 60%, 運動技能 40%, 計 100%

**教科書**  
 ワークシート(授業ノート)を配布する。

**参考書・参考資料**  
 ・「体育あそびアラカルト」(榎岡義明編著, 朱鷺書房)  
 ・「運動遊び」(井上勝子編著, 建帛社)  
 ・「運動あそび指導百科」(前橋明著, ひかりのくに)

**その他(学生へのアドバイス)**  
 毎時、運動のできる服装(ジャージ及び体育館シューズ)で受講し、水分補給の準備をすること。

授業科目	パフォーミングボディ				
担当教員	山田 悠莉				
開講時期	前・後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 保育の現場において、心とからだと共に深く豊かに開放され、生き生きと動くからだの獲得をするために、ダンス（身体表現）の領域からアプローチする。ひらかれた身体を用いて、温かくしなやかに子どもとコミュニケーションを取ることのできる保育者の育成を目指す。自己の身体と向き合い、自由に身体を使って動くことの楽しさ、技術を身につけ、身体表現についての理解を深める。

**授業の到達目標**  
 (1) 保育における身体表現の特性について理解し、自らの言葉で説明することができる  
 (2) 仲間とコミュニケーションを図りながら、身体を使ってイメージや思いを自由に表現することができる  
 (3) 様々な表現に興味関心を持ち、子どもや仲間の表現を鑑賞し、表現の多様性を理解する

**自修について(予習・復習内容等)**  
 常に自分の感性を磨く努力をする。指示があった場合は題材について調べ学習、資料集めをする(30分から1時間程度)  
 毎授業後に必ず、授業の振り返りを行う。授業で行った部分のテキストを読み、ワークシートを記入する(30分から1時間程度)

回数	授業計画・内容
1	「保育者に求められるからだ」について
2	身体的コミュニケーション(模倣)
3	手遊び、わらべ歌を使って
4	動きから生まれる表現
5	リズムダンス創作(基礎、創作)
6	リズムダンス創作(発表)
7	日常的な物を使った表現
8	歌、音を手掛かりとした表現
9	絵本、文学作品を手掛かりとした表現
10	様々な表現方法を知る(鑑賞)
11	イメージから生まれる表現
12	人とかかわりをねらいとした表現(グループ創作①)
13	人とかかわりをねらいとした表現(グループ創作②)
14	表現発表会
15	実技テスト、まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 試験 40%、中間テスト 20%、毎時のワークシート 30%、レポート 10%、計 100%

**教科書**  
 「乳幼児のダンス ABC」猪崎弥生・山田悠莉(一二三書房)

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業は必ず運動に適した服装で参加すること。(ジャージ・Tシャツ等)  
 また、教科書、筆記用具、ワークシート冊子を持参する

授業科目	子どもの研究 II				
担当教員	笹瀬 佐代子				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		◎

**授業の目的**  
 基礎演習および子どもの研究 I の学びを発展させて、保育者としての専門的な知識・技能を総合的に考え実践することができるようになる。  
 社会・地域のニーズを把握して保育現場における課題を見つけ、解決する力を身につける

**授業の到達目標**  
 1. 保育の現場で活用できる子どものあそびについて調べ、説明することができる  
 2. 保育現場において自ら見つけた課題を、解決するための方法について調べ、述べるすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 1回～6回まで参考文献等の読書を含み計6時間程度  
 7～15回まで参考文献等の読書を含み計9時間程度

回数	授業計画・内容
1	ガイダンス
2	子どものあそび①ワーク
3	子どものあそび②テーマ設定
4	子どものあそび③調査
5	子どものあそび④まとめ
6	子どものあそび⑤発表
7	発表レポート作成の基礎
8	コミュニケーションゲーム
9	研究①テーマの設定
10	研究②文献を探す
11	研究③文献を読む
12	研究④調査の方法
13	研究⑤まとめる
14	研究・調査の発表①第1グループ
15	研究・調査の発表②第2グループ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業時のワークシート 20%、課題 30%、発表 20%、最終レポート 30%、計 100%

**教科書**  
 プリントを配布

**参考書・参考資料**  
 財団法人幼少年教育研究所編『新版 遊びの指導 乳・幼児編』同文書院

**その他(学生へのアドバイス)**  
 なし

授業科目	発達と教育の心理学演習				
担当教員	丸山 笑里佳				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	

**授業の目的**  
 保育者として発達を学ぶことは、子どもの安全への配慮や子どもの理解、援助をしていく上で重要である。この授業では、発達と教育の心理学の内容を理解したうえで、保育実践の場で役立つ知識とするために、保育の日常的文脈での子どもの発達や学習に関する理解を深める。

**授業の到達目標**  
 1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。  
 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。  
 3. 保育における発達援助について学ぶ。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 1～14回まで毎回の授業につき予習復習等1時間  
 授業の復習および課題に取り組むことに加え、発達と教育の心理学、の復習を行うこと。  
 14回目 試験準備として1時間

回数	授業計画・内容
1	子どもの発達と保育実践(1)子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践(2)個人差や発達過程に応じた保育 1
3	子どもの発達と保育実践(3)個人差や発達過程に応じた保育 2
4	保育における発達援助(1) 発達の課題に応じた援助やかかわり 1
5	保育における発達援助(2) 発達の課題に応じた援助やかかわり 2
6	子どもの発達と保育実践(4)身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
7	子どもの発達と保育実践(5)環境としての保育者と子どもの発達
8	子どもの発達と保育実践(6)子ども集団と保育の環境、子ども相互のかかわりと関係作り
9	子どもの発達と保育実践(7)自己主張と自己統制
10	生活や遊びを通した学びの過程
11	保育における発達援助(3)現代社会における子どもの発達と保育の課題
12	基本的な生活習慣の獲得と発達援助
13	保育における発達援助(4)自己の主体性の形成と発達援助
14	保育における発達援助(5)発達援助における協働
15	保育における発達援助(6)発達の連続性と就学への支援
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 プリーレポート 20%、演習課題 30%、最終レポート 50%、計 100%

**教科書**  
 なし。毎回資料を配布する。

**参考書・参考資料**  
 『保育の心理学 第2版』 ナカニシヤ出版

**その他(学生へのアドバイス)**  
 配布された資料は整理し、毎回持参すること。

授業科目	保育内容演習(人間関係)				
担当教員	山崎 千恵子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

**授業の目的**  
 保育所や幼稚園において、乳幼児期の人間関係で重要なことは、豊かなかかわりがもてるような集団がつくられ、その中で育ち合っていくことである。そのために必要な子どもの内面の育ちを支える保育者の役割や、発達のプロセスをふまえた保育のあり方について理解を深めることを目的とする。

**授業の到達目標**  
 (1)乳幼児期の人間関係の重要性を自分なりに捉えることができる。  
 (2)保育実践事例から、乳幼児期における人とのかかわりの発達について説明することができる。  
 (3)人とのかかわりを育てるための保育者の役割について自分の考えを発言や文章で示すことができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・1～10回まで毎回の授業につき予習復習等1時間  
 ・7～12回の授業の中での課題学習として合計6時間  
 ・14回は試験準備として1時間

回数	授業計画・内容
1	授業ガイダンス、保育の基本について
2	保育の基本と人とのかかわり
3	乳児期(0歳～2歳代)における人とのかかわりの発達
4	幼児期(3歳以降)における人とのかかわりの発達
5	遊びのなかで育つ人とのかかわり(1)遊びの大切さ
6	遊びのなかで育つ人とのかかわり(2)人とかかわる基本的な力
7	人とのかかわりを育てる保育の実践(1)グループで課題検討
8	人とのかかわりを育てる保育の実践(2)各自で事例検討
9	人とのかかわりを育てる保育者の役割(1)保育者のあり方
10	人とのかかわりを育てる保育者の役割(2)VTR 視聴
11	人とのかかわりが難しい子どもへの支援(1)グループワーク
12	人とのかかわりが難しい子どもへの支援(2)グループ発表
13	領域「人間関係」をめぐる諸問題(1)自我の育ちと自己抑制等
14	領域「人間関係」をめぐる諸問題(2)自由と管理等
15	まとめ、学びに向けての課題について
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 課題30%、筆記試験70%、計100%

**教科書**  
 最新保育講座8 保育内容「人間関係」(ミネルヴァ書房)

**参考書・参考資料**  
 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・グループワークや課題検討等、主体的に取り組む。  
 ・授業で指示された課題は全員提出する。

授業科目	保育内容演習(環境)				
担当教員	後藤 直美				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	◎		

**授業の目的**  
 連携型認定こども園教育、保育要領・教育要領・保育指針に示されている「環境を通して行う教育」の意味を理解し、実践を通して環境学習し、保育者としての援助と自然環境・園環境の構成に必要な知識や術を習得する。

**授業の到達目標**  
 (1) 保育実践の具体的な場面から、領域「環境」の内容について説明することができる。  
 (2) 「体験する」「調べる」「考える」ことを実践して、園環境の構成を工夫することができる

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・体験する内容では、積極的に環境にかかわって学び、テキストを整理し復習して、次回の内容を準備学習する。(7. 5時間)  
 ・毎回の教材・教具を自分なりに考察し準備をする(7. 5時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション 幼児教育の目的と領域
2	保育の基本「環境を通して行う教育」について
3	領域「環境」のねらい・内容
4	自然とふれあい感動する
5	物事の法則性に気づく
6	季節感を味わう
7	自然を取り入れて遊ぶ
8	生命の営みにふれる
9	身のまわりの物に愛着をもつ
10	科学を体験する
11	数量・図形に親しむ
12	標識や文字の必要感を育む
13	身近な情報や施設を活かし、生活を豊かにする
14	子どもを取り巻く環境の変化と園の環境
15	小テストと課題の整理
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 試験 50%、製作物 40%、提出物 10%、計 100%

**教科書**  
 ・テキスト 体験する 調べる 考える 領域「環境」  
 萌文書林 田宮緑著  
 ・参考書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説  
 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説

**参考書・参考資料**  
 保育内容「環境」 ミネルヴァ書房

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業の内容に応じた服装で参加する。

授業科目	保育表現演習				
担当教員	鈴木 穂波				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	○

**授業の目的**  
 子どもが自発的・主体的な表現活動を楽しむことができるように、自己の経験や学びを振り返り、対象や目的を整理して、遊びの計画や援助技術を修得する。また、幼児教育祭に向けた協働作業を通して、保育者に必要な表現力を身につける。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもが表現活動に興味・関心を持つための環境構成や、援助のあり方について説明することができる。  
 (2) 子どもの表現活動を実践するため、自分の考えや意見を示すこと、仲間と協力して創意工夫をすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・活動記録の記入として合計7時間。  
 ・活動発表準備として合計8時間。

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション、子どもの表現活動とは
2	子どもの表現活動を引き出すには(1)実践
3	子どもの表現活動を引き出すには(2)考察
4	グループによる表現活動研究(1)企画の立案
5	グループによる表現活動研究(2)発表準備
6	グループによる表現活動研究(3)発表
7	グループによる表現活動研究(4)討議と幼児教育祭での発表に向けて
8	幼児教育祭の発表準備(1)企画の立案
9	幼児教育祭の発表準備(2)制作準備
10	幼児教育祭の発表準備(3)制作
11	幼児教育祭の発表準備(4)仕上げ・当日の打ち合わせ
12	幼児教育祭の発表準備(5)前日準備①設営
13	幼児教育祭の発表準備(6)前日準備②設営続きと打ち合わせ
14	幼児教育祭での発表(1)1日目
15	幼児教育祭での発表(2)2日目
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 毎時の記録 30%、課題 40%、レポート 30%、計 100%

**教科書**  
 なし

**参考書・参考資料**  
 『絵本から広がるあそび大集合』石井光恵・甲斐聖子／著 ナツメ社  
 『木内かつの絵本あそび』木内かつ／著 福音館書店  
 その他随時提示

**その他(学生へのアドバイス)**  
 成果を幼児教育祭で発表するため、授業日に変更がある。



授業科目	保育表現演習				
担当教員	笹瀬 佐代子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
		◎	○	◎	○

**授業の目的**  
 子どもが自発的・主体的な表現活動を楽しむことができるように、自己の経験や学びを振り返り、対象や目的を整理して、遊びの計画や援助技術を修得する。また、幼児教育祭に向けた協働作業を通して、保育者に必要な表現力を身につける。

**授業の到達目標**  
 (1) 子どもが表現活動に興味・関心を持つための環境構成や、援助のあり方について説明することができる。  
 (2) 子どもの表現活動を実践するため、自分の考えや意見を示すこと、仲間と協力して創意工夫をすることができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 1回～9回まで毎回の授業につき予習復習等1時間30分程度  
 10～15回まで計1時間30分程度

回数	授業計画・内容
1	ガイダンス、コミュニケーションゲーム
2	子どもとあそび(1) ことばのあそび
3	子どもとあそび(2)絵のあそび
4	子どもとあそび(3)体を動かしたあそび
5	子どもとあそび(4)身近な素材を使った制作あそび
6	子どもとあそび(5)身近な素材を使った科学実験
7	学びを実践につなげる(1)実践の場を考える
8	学びを実践につなげる(2)実践の場を発表し共有する
9	幼児教育祭の準備(1)制作準備
10	幼児教育祭の準備(2)制作
11	幼児教育祭の準備(3)制作と調整
12	幼児教育祭の前日準備(1)制作と試行
13	幼児教育祭の前日準備(1)制作と確認
14	幼児教育祭への参加(1)1日目
15	幼児教育祭への参加(2)2日目
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 授業時のワークシート 40%、課題 30%、最終レポート 30%、計 100%

**教科書**  
 プリントを配布する

**参考書・参考資料**  
 財団法人幼少年教育研究所編『新版 遊びの指導 乳・幼児編』同文書院

**その他(学生へのアドバイス)**

授業科目	指導法の研究				
担当教員	山崎 千恵子				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	◎	

**授業の目的**  
 保育方法の基本的な考え方を学び、乳幼児期にふさわしい保育の方法を理解するとともに、保育の楽しさを感じながら自分自身の保育の実践に結びついていくことを目的とする。

**授業の到達目標**  
 (1) 子ども理解、環境の構成、遊びの展開、保育の計画・実践など、保育の基本的な考え方を理解する中で、保育者としての自分をイメージしていくことができるようになる。  
 (2) 事例を読みとったり、課題を考えたりして、自分なりの子ども観や保育観を発言や文章で表すことができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・1～14回まで毎回の授業につき予習復習等1時間  
 ・参考文献等の読書3冊(1冊につき5時間)  
 ・14回は試験準備として1時間

回数	授業計画・内容
1	前期授業ガイダンス、保育方法とは何か(事例を通して考える)
2	保育方法とは何か(保育方法の基本)
3	子ども理解からはじまる保育方法(内面理解)
4	子ども理解からはじまる保育方法(内面理解を支える発達)
5	環境を生かした保育方法
6	遊びを通しての総合的な指導方法
7	個と集団を生かした保育方法
8	子どもにふさわしい園生活と保育形態
9	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法(発達と遊び)
10	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法(保育者のかかわり)
11	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法(入園当初～4歳児前半)
12	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法(4歳児後半～卒園)
13	保育の計画・実践・評価(VTR視聴を通して考える)
14	保育の計画・実践・評価(計画・記録の意味)
15	前期のまとめ、後期に向けた課題について
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 レポート20%、課題30%、筆記試験50%、計100%

**教科書**  
 最新保育講座6 保育方法・指導法(ミネルヴァ書房)

**参考書・参考資料**  
 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・授業に必要なテキスト等を毎回必ず持参する。  
 ・板書だけでなく、自分なりに重要な点を整理し、記す。  
 ・随時、参考資料を配布するので、整理して保管する。

授業科目	教育実習(事前・事後指導を含む。)			
担当教員	後藤直美・西川由美子			
開講時期	講義形態	実習	単位数	5単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
			◎	○	◎

<b>授業の目的</b>
事前指導では、実習に向けての準備や指導計画立案など、自ら進んで取り組み、実習に意欲的に参加する姿勢をもつことを目的とする 実習では、日々課題をもって実習に参加し、指導計画に基づいた活動を行うなど、実践的な学びを深める。また、既習の教科やこれまでの実習の経験から得た知識や技能を最大限に生かし、実践することを目的とする 事後指導では、実習における自己評価から、保育者としての自己課題を明確化するとともに、保育観の構築を図ることを目的とする

<b>授業の到達目標</b>
(1)「幼稚園本実習」の意義を理解し、自らの課題を文章化できる (2)子ども理解や教材研究を積極的に行い、指導計画を立案することができる (3)子どもの言動、遊びの様子から、子どもの学びを読み取ることができる (4)保育者の子どもへのかかわりや環境構成などを観察し、意図を汲み取ることができる (5)実習の振り返りから、自らの実習を省察し、保育者としての課題を明確にし、文章化できる

<b>自修について(予習・復習内容等)</b>
実習に必要な書類作成、教材研究、制作物、記録等授業内で説明を受けた後、全て予習・復習が必要となる。毎回1時間行うこと 止むを得ず欠席した場合は授業と同時間の補充を行う

回数	授業計画・内容
	【事前指導の主な内容】
	「幼稚園本実習」の内容と課題の明確化、留意事項、心構え
	教育課程に基づいた子ども理解
	実習の計画と記録、書類作成
	指導計画立案、教材研究
	現地オリエンテーション
	【本実習の主な内容】
	幼稚園の生活の流れや機能、保育者の役割の理解
	遊びや活動への積極的なかかわりと子ども理解
	適切な教材研究及び指導計画の立案による実践と振り返り
	保育以外の環境整備や保育の準備への自発的、協力的な行動
	指導者からの助言による日々の省察と課題をもつ姿勢
	【事後指導の主な内容】
	実習の総括と自己評価
	保育者としての課題の明確化

<b>成績評価の方法・基準</b>
実習園の評価 50%、提出物 30%、授業ファイル 20%、計 100%

<b>教科書</b>
『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説書』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 『保育・教育実習を深める』・『保育・教育実習から学ぶ(第2版)』愛智出版 『保育の計画と方法(第3版)』同文書院

<b>参考書・参考資料</b>
『実習の手引き』

<b>その他(学生へのアドバイス)</b>
授業内で配付する資料は規定の「授業ファイル」に整理して綴じ、授業終了時に提出する。「実習記録」は実習後に提出する 「実習の手引き」に記載されている「実習参加条件」に従って、実習参加の可否を決定する